

下顎大臼歯舌側歯肉から臼後部に至る周辺型歯原性粘液腫の1例

道津友里子 喜久田利弘 大谷 泰志

福岡大学医学部医学科歯科口腔外科学講座

要旨：口腔領域に発生する粘液腫の多くは顎骨中心性に発生する。歯肉などの口腔軟組織での発生はまれである。今回、我々は下顎大臼歯舌側歯肉から臼後部に発生した骨外型歯原性粘液腫を経験したので報告する。

症例は29歳男性。2年前より左下顎7番舌側歯肉から遠心歯肉の外向性腫瘍に気づくも放置。その後、腫瘍が増大したため某医科大学歯科口腔外科受診。生検で Spindle Cell Tumor の診断を得た。当科初診時、左下顎7番および臼後部に弾性やや硬の30mm大、表面色調が健康粘膜色の腫瘍があった。再生検にて粘液腫の診断を得た。全麻下で切除を施行した。摘出物の病理所見は、粘液様間質のなかに星状ないしは紡錘状の細胞の増殖がみられ、免疫組織化学染色でAE1/AE3陰性で歯原性上皮は明確ではなかった。

本症例は外向性発育、明確な歯原性上皮がなく、骨吸収像、第3大臼歯の欠如、第2大臼歯歯周靭帯との強い癒着などから歯原性粘液腫と診断された希な症例と考えた。

キーワード：歯原性粘液腫, 口腔軟組織, 歯原性上皮, WHO 組織分類, 周辺型